

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 藤原一秀

所属： 桃山学院大学

記録日： 2016年 2月 10日

キーワード： 肢体不自由 運動・動作 書きの困難 大学

【対象学生の情報】

○学年 社会学部 3 回生

○障害名 肢体不自由

○障害と困難の内容

- ・ 電動車いすを使用
- ・ 保護者の車で通学
- ・ 手指の巧緻性の課題があり、筆記や機器を使った入力には時間を要する

○桃山学院大学の障害のある学生へのサポート体制

- ・ 障害のある学生への共通支援として 個別相談、定期試験の配慮（時間延長、別室試験など）、各教科担当教員への配慮事項事前伝達、障害者控室の設置が行われている
 - ・ 聴覚障害のある学生には、「ノートテイク」、「パソコンテイク」、「文字おこし」のサポート
 - ・ 肢体不自由の学生には、トイレ・食事・移動介助のサポート
 - ・ サポートする学生も有償、無償の両面から積極的な募集が行われている
- (参考HP: <http://www.andrew.ac.jp/campuslife/support/handicapped.html>)

【活動目的】

○当初のねらい

- ・ 安定した文字入力と、指定されたフォーマットへの入力方法の確立。
- ・ 講義ノートやスケジュールなど、後から見直し・確認がスムーズできる方法の取得

○実施期間 5月～12月 (毎週月曜日 5限終了後の1時間)

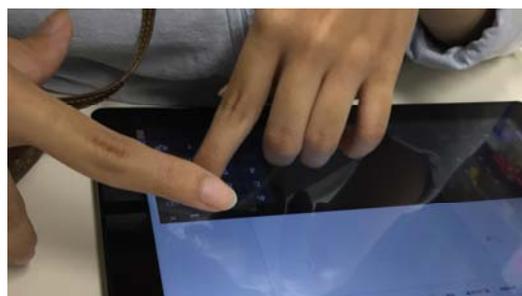
○実施者 藤原一秀 (社会学部兼任講師) 共同研究者 石田易司 (社会学部教授)

○実施者と対象児の関係 社会福祉学科の教員と学生

【活動内容と対象学生の変化】

○対象学生の事前の状況

- ・ 保護者や友人との連絡に LINE を使っているの、iPhone の操作には慣れている。
毎日使う定型文やスタンプがほとんどで、必要な連絡は数回のタッチで送信は完了している。
- ・ 自宅では Windows8.1 のノートパソコンを使用。
キーボードは左右の人差し指のみで操作。
非常に長いログインパスワードを使っているの、起動時から文字入力が必要。
- ・ ノートパソコンは Word を中心に使用し、他の目的ではほとんど使っていない。
- ・ これまでの大学での機器活用は IC レコーダーのみ。
- ・ 講義録音での復習や、レポート作成に追われ、帰宅後や休日もほとんど余裕はない。



Windows タブレットへのフリック入力練習。
フリック入力は iPhone で慣れていた。

○活動の具体的内容

- ・ PowerPoint によるレポート提出への取組

これまでレポートなどは Word を使った文字列入力のみであった。

今年度前期に履修した「社会福祉レクリエーション論」では、「自分ができるスポーツを紹介するスライドを PowerPoint で作成する」という課題が出された。図や写真の入力、文字の大きさやフォント選択、色指定など、これまでのレポート課題ではほとんど経験していなかった。

6月～7月の間、月曜5限終了後1時間、パワーポイント教室を実施。

Bさんができる操作方法を模索しながら、WEBから必要な情報を探し出し、必要な写真をダウンロード。図形入力とその位置・サイズの変更方法などを練習。

・社会福祉士実習への取組

当初、大学近くで実習施設が選ばれた。それは大学通学と同じく保護者の送迎・サポートが前提とされていた。4月から本プロジェクトも実施され、Bさんと保護者、教授や実習指導担当者と、今後のことが話し合われる中で、「できることは今から挑戦」という流れになってきた。

そこで実習施設を自宅から電動車いすで往復できる場所に変更し、実習中も可能な限り介助を受けない方法が検討された。

慣れない場所で1日実習を終え、記録を書き、明日の準備をすることは、誰でも厳しい状況になる。

これまでBさん自身がレポートなどで入力した専門用語を登録し、予測変換の精度を上げることで、記録作成をスムーズにし、実習全体の負担を軽減することを試みた。

○対象学生の事後の変化

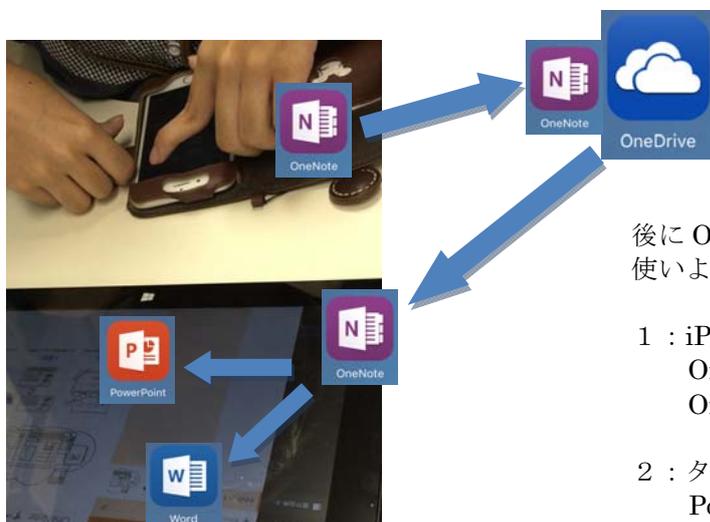
・パワーポイントによるレポート提出への取組

課題は「自分ができるスポーツ」であったが「スポーツしたことがない」というところから、課題選びがスタートした。

- 1 : Windows タブレットで情報収集。写真のダウンロード
- 2 : そのまま PowerPoint を開いて、写真や図形の張り付け
- 3 : データを OneDrive のフォルダに保存したら、同じ ID のためノートパソコンに自動同期
- 4 : ノートパソコンから開いて、文字部分のみ入力 (OneDrive で自動同期)
- 5 : 保存して再び Windows タブレットで開く
- 6 : 文字の大きさ・フォント・色を変更して保存

けれども最後に完成したのは「乗馬」ではなく「水泳」についてのスライド。

途中で気が変わり、再度「水泳」について調べたとのこと。全部やり直すほどの余裕が感じられた。



後に OneNote で先にテキストを入力する方法を使いようになった

- 1 : iPhone の OneNote で入力した文字が、OneDrive 経由で、Windows タブレットの OneNote に自動的に同期される
- 2 : タブレットやノートパソコン上の Word や PowerPoint で仕上げる

・社会福祉士実習への取組

実習中、Bさんと全く話をする時間がなかった。一番心配した「実習記録」は前半の「今日の出来事」のみBさん自身が入力し、あとの部分は家族に協力してもらったとのこと。

それでも帰宅後毎日4、5時間かかったらしい。現場では教科書的な専門用語がそれほど使われる訳ではないので、単語登録による予測変換精度向上はほとんど効果がなかった。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

これまでiPhoneはLINE中心に、ノートパソコンはWord中心に使っていた。

PowerPointスライドによる提出課題は、これまでならば文字のみの配慮を受けることもできたが、本プロジェクトでタッチパネルのWindowsタブレットが支給されたため、特別な準備なしで取り組むことができた。

一番の課題である文字入力について、具体的に入力スピードを計り、実習中であれば帰宅してからの取り組める時間を考え、睡眠時間など健康面のバランスも考慮して、家族へ応援も依頼している。

○エビデンス（具体的数値など）

学年が上がることにより、実習や論文で文書入力が増え始め、課題が切実なものとなった。

マウス・・・「1：ポイントしたままその場でクリックする」・・・苦手なので使わない。

タッチパッド・・・「1：ポインタを移動」、「2：指を一旦離して」、「3：ボタンだけクリック」

マウスで苦手だった操作がワンステップずつ確実に操作可能。図形などもタッチしたまま目的の場所に移動することができるため、位置の微調整も可能であることがわかった。



4回生になれば、卒業論文を書かねばならない。

課題が決まり、本格的に内容に取り組む前に、入力方法の課題をクリアしておきたかった。

10月に突然Bさんから「Siriが一番私のことをよくわかってくれます」と、音声入力を提案された学内で魔法の活動として取り組める時間は週1回60分程度であったが、Bさんは自分で入力方法など研究していた。

【入力速度比較】

・友人：キーボードで3分・・・Bさん：フリックで9分、キーボードで17分。

・Bさん：キーボードで5時間・・・音声で2時間。

このように受け身にならず機器やアプリの紹介・説明するだけで、どう使うかBさん自身で考え・工夫している。

○その他エピソード（画像などを含めて）

iPhone のカメラは固定とシャッター操作を同時できないため、ほとんど使っていなかった。外部ボタンの工夫で、カメラを使えるようにすると、写真の活用という幅が広がる。

また、今後さらに必要となる各種の書類記入が、タッチアンドリードなど用いて、抵抗なく対処できるようになってもらいたい。



Bluetooth ホームボタン&シャッターボタン

